

# 漁民救済に養殖事業

水保

## 車エビを主体に

### 資本金 千円 年内にも会社設立

水保漁民を救済するための水保水産振興会社設立の早急な実現のため上京中だつた山口崎人氏を委員長とする市議会新案対策委員の四委員と石原助役はこのほど

兼任、車エビの養殖を主体に資本金二千円内で年内会社設立に踏み切ることになった、と十四日山口委員長から発表があった。

同会社は民間会社として十一月には操業をはじめの計画。資本金一千円(うち新日産出資金五百円、市の補助若干)のほか養殖に必要な冷房設備、水そうなどを加えると最小限二千円―二千五百円はかかるという。こ

のため足りない分は森林中金からの融資を考えている。

同養殖場は車エビの養殖のほか、タヌキなどを収容能力は常時千八百七十五坪(五百圓)で、三・三平方メートルの広さ

で仕切られた養殖池を二百個設置する計画。場所については同委員会検討中だが、同市丸島漁港の埋め立て地四千九百五十平方メートル(千五百坪)としたいと考えて、これに必要な海水は同市

外からエスロンパイプを通して引く、養殖池の種エビは水保漁民が不知火海一円でとり、別に同会社に専従漁民十人程度をおく、技術面の指導は千葉県木更津の厚生水産局が当たる予定。

同会社が軌道に乗れば車エビ三・七五坪(一貫)あたり四千円―五千円にはなる見込みで、販路は東京、大阪、福岡など。同会社は民間会社で発足するため会社自体の

営利主義も考えられるので、会社重役もすっかりした人物を配し、あくまでも漁民の生活向上をはかるようにしたいといっている。

問題となるのは水保漁民の漁業権問題だが、他地区で種エビをとる場合は種々の困難が予想されると同時に、養殖場へ引かれる海水がたとえ漁業禁止区域外から引かれるものであっても、

いままでのいきさつから買いたたかれる恐れもあり、委員会では別に二千円―三千万円程度の製水会社を併設する計画もあるといっている。委員会としては正式には臨時市議会にはかつて決める意向。いまのところ同会社設立に踏み切ることには間違いないが、現在の計画はあくまでも立案中のものといっている。

たかれる恐れもあり、委員会では別に二千円―三千万円程度の製水会社を併設する計画もあるといっている。委員会としては正式には臨時市議会にはかつて決める意向。いまのところ同会社設立に踏み切ることには間違いないが、現在の計画はあくまでも立案中のものといっている。

設立までのいきさつ

新日産と水保漁協間の水保関係の被害補償金問題の紛争が昨年十月二十五日未明、解決調印されたとき、新日産は漁協側に対し補償金のほか漁業振興会社設立資金として五百万円を出資する契約が成立、その関係者間で水保で車エビを養殖して漁民救済にあてたいとの話が出た。同委員会では新日産と原専務はじめ千葉厚生水産局の杉井助之助社長らと再三話し合った結果、十九日より設立に踏み切ることになったもの。